



森林ふれあい情報

令和5年8月 第62号

林野庁中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター
〒397-0001
長野県木曽郡木曽町福島5473-8
TEL: 0264(22)2122
E-mail: kiso-fureai@maff.go.jp

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に変更され、森林教室などのイベント開催も少しずつ以前の状況に戻りつつあります。4月～6月は春の息吹を感じながら森林を通して多くの方々とふれあうことができました。

希少野生植物の開花調査

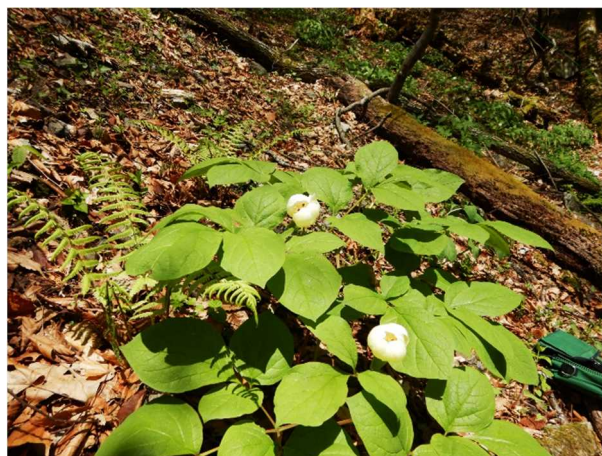
毎年、実施している木曽郡木曽町の城山^{きそぐんきそまちじょうやま}国有林に自生する希少野生植物の開花調査を行いました。雪解けも早かった今年は何の種も例年より早い開花でした。

①カタクリの開花状況



開花したカタクリ

②ヤマシャクヤクの開花状況



開花したヤマシャクヤク

③カザグルマの開花状況



支柱を支えにして開花しました

④ササユリの開花状況



野生動物の食害を免れ開花しました

三者協定現地検討会を開催

6月13～14日、木曽森林管理署管内の国有林において、三者協定（森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定）現地検討会を行い関係者20名が参加しました。

本協定は、森林研究・整備機構森林総合研究所（以下、森林総研）、信州大学農学部および中部森林管理局の三者が、それぞれ実施する研究、事業等において連携と協力を行い、地域の森林・林業、木材利用の課題を解決し、併せてその成果を活用する取組により地域振興を図ることを目的とするものです。

初日は、木曽郡上松町の赤沢自然休養林において、現在の木曽ヒノキ林成立前の林分構造を推定するため、当センターと森林総研で調査・分析を行い、樹齢が1000年程度と推定された木曽ヒノキの古い根株等を確認し、今後の調査・分析について意見交換を行いました。



古い根株を確認し意見交換

2日目は、王滝村の三浦国有林において、木曽ヒノキの天然更新技術の確立に向けて森林総研と木曽森林管理署が共同調査を行っている試験地を視察し、天然更新



木曽ヒノキ天然更新試験地で現地検討

の妨げになるササの処理方法とヒノキの稚樹の発生状況を確認しながら、更新補助技術について検討を行いました。

現地検討会は、新型コロナウイルス感染症の影響から、4年ぶりの開催となりましたが、参加者からは調査方法等についての質問や意見、アドバイスが出される等、関係者相互に研究成果の理解を深めることができ、大変有意義なものとなりました。

赤沢自然休養林、御嶽山麓トレッキングパズルラリーを開始

当センターでは、平成26年の御嶽山噴火災害で打撃を受けた木曽地域の観光産業の復興支援と森林に親しみながらその大切さを理解してもらうことを目的として、毎年「中山道木曽十一宿パズルラリー」、「御嶽山麓パズルラリー」および「赤沢自然休養林パズルラリー」を行っています。

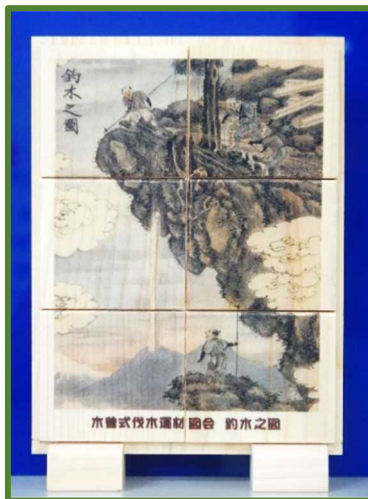
この内、冬期間は開催できない「赤沢自然休養林パズルラリー」を4月の大型連休から、また「御嶽山麓パズルラリー」を6月20日から再開しました。

「赤沢自然休養林パズルラリー」では、シリーズ第8弾を昨年の10月から実施していましたが、企画が好評だったため準備した木製パズルは5月末には全て終了してしまい急遽^{きゅうきよ}新たなパズルを準備し、第9弾を7月から開始しました。

これから夏休みや紅葉の時期を迎えることから、多くの方々にパズルラリーへ参加いただき、木曽地域での思い出づくりや地域の復興支援に取り組んでいきたいと思ひます。



赤沢自然休養林パズルラリー
のパズル箱



赤沢自然休養林パズルラリー
第9弾 完成品



御岳山麓パズルラリー
完成品

自然観察実習

5月15日、木曽郡上松町の赤沢自然休養林^{か も の う り ん こ う と う が っ こ う}で、岐阜県立加茂農林高等学校森林科学科の学生40名を対象とした自然観察実習が開催され、当センターと木曽森林管理署の職員が講師を務めました。

この自然学習は「日本三大美林の一つである木曽ヒノキ林を見学し、人工林施業の歴史の理解を深めること」を目的とするもので、職員が赤沢自然休養林の概要や木曽五木の特徴、木曽ヒノキの成り立ち等を説明しながら実習指導を行いました。

休養林内の木曽ヒノキとアスナロ（ヒバ）の二段林を見学し、伊勢神宮において20年に一度行われる式年遷宮の行事で昭和60年に伐採された御神木の切り株に直接触れるとともに、パワースポットとして有名な歩道沿いにある根上がり木のくぐり抜けを行いました。



木曽ヒノキとアスナロの二段林を見学



パワースポットに触れる

作業体験と学術研究路見学

5月12日、長野県上松技術専門校の訓練生24名が上松町の小川入^{おがわいり}国有林内のチップ撒きによる歩道補修作業と赤沢自然休養林の学術研究路見学を行いました。

午前中は訓練生が4班に分かれ、当センター及び木曽森林管理署職員からチップ撒きについての作業手順と安全上の注意点について説明を受けて作業に取りかかり、チップを撒く箇所・厚さなどを班のメンバーで相談しながら手分けをして予定通りに作業が終了しました。

午後の学術研究路見学では、樹齢300年余りの木曽ヒノキやサワラが生育する森林を見学しながら、木曽ヒノキの歴史や木曽五木の見分け方などを学びました。



休養林内の「御神木伐採跡地」を見学

「山と緑の協力隊」赤沢プログラム

6月10・11日の2日間、木曽郡上松町の小川入国有林「ふれあいの森」において、（特非）地球緑化センターが主催する「山と緑の協力隊」赤沢プログラムが開催され、14名のボランティアが参加しました。

この活動は、「木曽ヒノキの森づくり」をテーマにヒノキ人工林の森林整備を実施するもので、コロナ禍の影響から一時中断はあったものの平成8年から継続して行われています。

今回は除伐^{じょばつ}作業を行い、1日目は木曽森林管理署職員の指導により予定どおり作業が行われましたが、2日目はあいにくの雨のため作業を断念し赤沢自然休養林の散策に変更となりました。



赤沢自然休養林の概要説明



ひのき大樹を見学

赤沢自然休養林では当センター職員から自然休養林の概要や自然休養林もエリアに含まれている生物多様性復元地域（愛称：木曽悠久^{きそゆうきゅう}の森^{もり}）の取組について説明するとともに、休養林内を巡りながら木曽谷林業の歴史等を学んでいただき今回の赤沢プログラムは終了しました。

「山と緑の協力隊」の赤沢プログラムは秋にも予定されており、次回は天候に恵まれることを期待しています。